

種生物学会 News Letter No. 11

The Society for the Study of Species Biology

種生物学研究編集委員会編集

1994年7月25日発行

第25回種生物学シンポジウム

第25回種生物学シンポジウムは1994年1月28日から30日に雪の千葉県房総半島白子海岸で伊藤元巳氏を初めとする千葉大学周辺の会員のお世話で行われた。

プレシンポジウムでは植物と昆虫の相互作用の化学生態学(京都工繊大学山岡亮平氏)の講演が行われた。シンポジウム一日目には「生物間相互作用と共進化」、二日目には「雑穀の起源と分化」についてそれぞれ話題提供と討論があった。生物間相互作用に関する発表はPlant Species Biologyに、雑穀の起源に関する発表は、種生物学研究に収録される予定である。

第26回種生物学シンポジウム

1995年のシンポジウムは次の概要で大阪市立自然史博物館と周辺の会員のお世話で行われる。奮って参加ください。

日時: 1995年2月3日-5日

場所: 関西地区大学セミナーハウス

(神戸市北区道場町生野字ロクゴ)

プログラム

2月3日 プレシンポジウム

2月4日 塩基配列解析による分子進化研究の現状と問題点

2月5日 種子散布生物学の現状と展望

会場は神戸市といっても交通の便が悪いため、宿泊されることをお勧めします。

詳細はニュース12号でお知らせします。

書評

植物自然史 戸部 博 著

朝倉書店 188ページ 定価2781円

この本は、植物系統学の入門書であり、陸上植物の進化の歴史を解説した本である。今から7億年前に生まれた陸上植物の祖先(緑色植物)が、現生する多様な陸上植物に進化していったかについて様々な側面から考察をしている。まさに、陸上植物の歴史が目の前に広がる感じがする。本書の内容は、全13章に分かれている。まず、各章ごとの内容を簡単に触れておこう。1. 陸上植物の始まり: 陸上植物がいつ、どこで、どんな方法で上陸し、有胚植物になったか。2. 初期の陸上植物たち: 最初に上陸した植物の種類や特徴について。3. コケ植物の世界: 陸上植物では、おそらくもっとも長い間子孫をつないで生き延びているコケ植物の重要性について。4. 維管束植物とはなにか: 維管束植物とその進化の過程で絶滅した植物の歴史、さらに、植物体の器官や組織について。5. 化石で知られる初期の無種子植物: 仮道管を持った初期の陸上植物について。6. 無種子植物: 裸子植物の時代の前に大繁殖していた無種子植物のその祖先群と現生種について。7. 種子の始まり: 陸上植物の初期進化の最も重要なイベントであった種子の獲得という植物進化の大革命の様子について。8. 絶滅した裸子植物: 陸上植物のとってきた様々な進化のチャレンジと、絶滅した裸子植物について。9. 現在の裸子植物: 生き残った裸子植物の進化における工夫と、4つの裸子植物群について。10. 被子植物の始まり: 陸

上植物の約9割を占め、我々にとってもっとも身近な存在である被子植物について。11. 被子植物の多様性：陸上植物の歴史の中で、1つの植物群として過去に例の無いほど多様化した被子植物について。12. 被子植物の分類と系統：約23万5千種の被子植物の分類体系と系統について。13. 種の絶滅と未来：自然環境の破壊と、そのために存在も知られないまま絶滅していく植物について触れ、我々は今なにをすべきかを述べている。特に、最後の13章は、現在我々の直面している種の絶滅と保存について考えさせられる章であり、熱帯雨林の崩壊は重大な問題である。また、12章では、ここ数年の間に進んだ分子データによる系統解析の結果についても触れており、最新の知見を取り入れた内容になっている。この本は、植物系統学・分類学の専門家以外の研究者やこれから植物系統学を学ぼうと考えている学生にとってこの分野の知識を得ようとするのに最適である。さらに、植物系統学を専門とする研究者にとっても一読の価値がある。 渡邊幹男（千葉大・理・生物）

学会記事

1. 総会報告

1993年度種生物学学会総会は1994年1月29日に千葉県白子町ホテル東天光において開かれた。総会では以下の項目について、事務局から報告および提案があり、審議の後、承認された。

A. 事務局報告

A-1. 会務の状況

鹿児島（会長：堀田満、庶務幹事：宮本旬子）、京都（事務局補佐：上田順子）、大阪（会計：林一彦）で分担している。

A-2. 役員選挙

今年度秋に役員選挙を行なう。

A-3. 会員移動

1993年12月31日現在の会員数。

()内は昨年度の会員数。

国内 一般425 (423) 学生39 (41)

機関 4 (3) 購読11 (12)

海外 一般27 (25) 学生会員1 (1)

購読29 (33)

A-4. 会誌・出版物発行状況

1993年度はPlant Species Biology Vol. 8 No. 1, No. 2, No. 3, 種生物学研究第17号, およびNews Letter No. 9, No. 10を刊行した。

A-5. 片岡賞

選考委員会委員として幹事会よりPlant Species Biology編集委員長と種生物学研究編集委員長を含む5名が推薦され承認された。

B. 審議・承認事項

B-1. 1992年度会計報告

別記（3ページ）のとおり報告があり承認された。

B-2. 1993年度予算

別記（4ページ）のとおり提案があり承認された。

B-3. 副会長制導入について

副会長制導入が提案され討議された。

B-4. 会則変更について

会則および選挙に関する付則案が示され、別記のとおり承認された。

B-5. 日本学術会議会員と推薦人の候補者について

堀田満会長を推薦人候補者とするとの報告があった。

B-6. 次期シンポジウム開催予定地

大阪市立自然史博物館の岡本、藤井両氏にご準備戴くことになった。

II. 会則および選挙に関する付則の変更

副会長制導入にともない以下のとおり会則と選挙に関する付則を変更することとなった。（変更箇所：下線部）

会則（部分）

3. 本会の趣旨に賛同し、会費を納入した者は会員となる。

4.2) Plant Species Biologyそのほかの定期・不定期刊行物の刊行。

6.1) 本会の議決機関は総会である。

総会は年1回開催する。

6.2) 議決の決定は出席会員の過半数以上の賛成をもって行なう。

7. 会長の任期は3年とし、再選は、これを認めない。

8. (副会長)

会長を補佐し、会務を円滑に進めるために副会長1名をおく。副会長の任期は3年とし、次期会長の候補者とする。選出方法は会長に準じる。

9.1) 幹事会は会長・副会長・庶務・会

計と14名の幹事で構成され、会の運営を行なう。幹事は会員の互選によって定める。幹事の任期は3年とし、連続3選を認めない。

選挙に関する付則(部分)

2) 会長・副会長選挙

会長・副会長選挙では全会員が被選挙権を有する。また幹事会は会長・副会長候補として、4名の会員を推薦することができる。投票は副会長を含めて単記無記名とする。得票が同数の場合は年少者を優先する。

3) 幹事選挙

幹事は以下の地域別に割り当てられた定員数にしたがい、各地域の会員の互選によって定める。選挙は会長選挙とともに行なう。投票は、定員1名区では単記無記名、複数区では地区定員数の連記無記名とする。得票が同数の場合は年少者を優先する。地区定員は、北海道1 東北2 関東3 中部2 近畿3 中国四国2 九州1(計14名)とする。

選挙実施に係わる幹事会申し合わせ事項

副会長選挙実施初年度は会長・副会長とも選挙により選出する。

片岡賞選考委員会委員

鷺谷いつみ(筑波大学)

巖佐 庸(九州大学)

矢原徹一(東京大学)

Grant, W.F.

Soltis, D.E.

河野昭一(PSB編集委員長)

山口裕文(種生物学研究委員長)

1993年度決算報告書

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
会費	2,388,996	印刷費	2,228,490
購読料	353,961	別刷り代金	314,871
バックナンバー売上金	35,500	編集諸経費	172,910
別刷り代金	638,423	通信費	361,082
預金利子	22,638	事務費	107,866
その他	38,500	事務補助謝金	670,000
		シンポジウム補助金	100,000
		雑費	7,072
小計	3,478,016	小計	3,962,291
前年度繰越金	1,841,059	次年度繰越金	1,356,784
合計	5,319,075	合計	5,319,075

上記の収支決算と内訳明細表・預金通帳・証書類を照合した結果1993年度の会計報告(決算報告)を適正と認めます。

1994年1月10日

会計監査委員 加藤 真 岡崎 純子

1994年度種生物学会予算

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
会費	3,637,000	印刷費	4,150,000
(91, 92, 93年度 未納分を含む)		PSB 8(2-3)	1,600,000
購読料	291,000	PSB 9(1)	650,000
バックナンバー売上金	50,000	PSB 9(2)	650,000
別刷代金	1,000,000	PSB 9(3)	650,000
預金利子	50,000	種生物研究18	500,000
		Newsletter11, 12	50,000
		封筒印刷	100,000
		別刷代金	440,000
		編集諸経費	200,000
		通信費	460,000
		事務費	120,000
		事務補助謝金	800,000
		シンポジウム補助金	100,000
		雑費	100,000
小計	5,028,000	小計	6,370,000
前年度繰越金	1,356,784	次年度繰越金	14,784
合計	6,384,784	合計	6,384,784

学会からのお知らせ

種生物学会会員名簿の改訂

役員選挙のための選挙人名簿作成を踏まえて
会員名簿を発行します。住所、所属など変更
を京都事務局へ連絡下さい。

郵便振替口座の番号変更

学会の口座番号が変更になりました。振込
用紙も変更となりますので会費払込の際には
注意下さい。

新番号 0130-3-21704

口座名 種生物学会